

最大ドロウダウンを最小化する

「最大連続損失取引数」を最小化する

「最大連続損失取引数」は損失取引が何回連続して発生したかを示す指標である。

ここで言う「損失取引が連続して発生する」という状態とは、いったいどういう状態なのだろうか。トレンド・フォロイングの手法を用いて売買するトレーダーはすぐにピンときたかもしれないが、これは以前にも取り上げた「ダマシ」が連続して発生するということにほかならない。つまり、本稿で目的としている「最大連続損失取引数を最小化する」ためには、ダマシをいかにして連続して発生させないかということになるだろう。

ダマシを防ぐためにどのような方法、考え方があられるかはこれまでもこのシリーズの中で述べてきた通りで、そのトレードに用いられているシステムの特徴により、それぞれ異なっている。しかしいざしにせよ、そこで用いられているシステムによってダマシとなる状況を分析し、その状況下におけるトレードを行わないということ（すなわち「休む」ということ）がダマシを防ぐための最も有効な手段であると思う。

例えばトレンド・フォロイング

つてくるわけである。

恐らくここで述べている手法以外にも、多くの有効な手法が世の中には存在していると思う。実際に運用システムを構築する際には、それらのより有効な手法を用いて、より安定度の高いプログラムを作られることを望むが、ドロウダウンをコントロールするための根本的な考え方としては、これまで本稿で説明してきたアプローチではほぼ間違いないと思う（さらに詳しく勉強したい人には「トゥーシャー・シャントの『売買システム入門』」をお読みになることを強く勧める。彼のアプローチが、ここで説明してきたものといかに似通っているかに、私自身が驚いている）。

相場の先行きを予測しようという努力は大切だ。しかし自分の行っていることが本当にそれだけの時間と労力を費やすだけの価値があるものなのかどうかを判断できる手法を確立することの方が、実はずっと大切なことだと私は確信している。偶然の結果による幸運を待ち続けるには、人生はあまりに短過ぎるからである。

「3回のシリーズを終了する」にあたり

これまで三回にわたり、簡単な例

のモデルにおいては、システムに「有効なトレンドがない」という状況を認識させることにより、ダマシの発生する頻度をずっと低く抑えることができるようになるわけである。こうした手法は「フィルター」と呼ばれる。

フィルターに用いられる指標には目的別にいくつものものがあがるが、一般的にトレンド・フォロワーが最も好むのは、トレンドの強さを測る指標であるADXを利用したフィルターである。これはADXが一定水準（例えば30%）以下にあるときは、エントリーを発生させないというものである。こうしたフィルターを用いて、望ましくない環境によるエントリーを減少させることで、連続して損失取引が発生する確率は減少し、結果として最大ドロウダウンが改善されるのである。

最適な資金配分の抱える矛盾

最高の収益をもたらすそのシステムにとつての最適な資金配分を求めるときは、大き過ぎるドロウダウンにより運用資産をすべて失ってしまわない範囲で、小刻みに資金配分を変化させてゆき（簡単なループのシステムを組んで適当な刻みで回してやる）、さまざまな期間における最大

の収益をもたらす資金配分を求めればよい。ところが実際にこれを行ってみれば分かる通り、最高収益をもたらす資金配分のドロウダウンは決して小さくないということが明らかになる。これが前号で述べた「メビウスの輪」のような矛盾を産んでいる。

「最適な資金配分はドロウダウンが大きい」という事実は、マネー・マネジメントを実践する者にとっては非常に頭の痛い問題である。ドロウダウンを小さく抑えようとして資金配分を小さくすると、結果的に収益率を低下させてしまうことになってしまう。「高い収益は欲しいが、大きいドロウダウンも嫌だ」とは誰もが考えることだが、現実はその間に甘くはないということである。世の中のほとんどのトレーダーは、この矛盾をいかにして解決するかというために、日夜努力を続けていると言ってもよいくらいだ。

このような理由から、これまでにご覧のとおり述べてきたように、「損失の平均」と「最大連続損失取引数」を、資金配分による調整ではなく、システム上あるいはパフォーマンス特性の調整を用いて低減することにより、ドロウダウンを比較的小さく抑えた上で、最適な資金配分を求めるといふことが必要にな

やゲームを通じて、相場というもののリスクサイドに視点を当てて文章を書いてきた。残念ながら多くの投資家は、リスクについて考えることを嫌がる傾向にある。しかしその代償として、いとも簡単に損失を累積してしまっている。この事実が気が付き、まず最初に「上手に負ける」ための戦い方を習得するところから、実はビジネスとしての相場の第一歩が始まっていくのである。

相場は現代の戦争とも言えるだろう。兵士の替わりにポジションを動かす、戦略を駆使してお力ネを奪い合う。相場は純粋に人の欲とエゴのぶつかりあいである。自分の勝利は誰かの負けによつてのみ成り立つ。もし全くリスクのない安全な道を選択したいのなら、相場なんかには手を出すべきではない。あるいは趣味と実益を兼ねてなど甘いことを考えているのであれば、それは大きな間違いだ。趣味にはお力ネを遣うものであって、お力ネを稼ぐものではないからである。本気で相場をやってお力ネを稼ぎたいなら、取るべきリスクをきちんと取り、果敢に攻め、そして上手に負けることである。

大衆投資家が損ばかりしているのは、上手に負けることを知らないからだと思ふ。古来から、戦上手は負け上手である。相場の世界において

不敗神話などあり得ない。利益を上げ続けているように見える人にして、実は小さな負けを何度となく繰り返している。大切なのは最終的な損失と利益のバランスであり、目の前のたつたひとつの小さな勝ち負けにこだわるべきではないのだ。

負け戦を上手に負けておけば、また次がある。いかに負け戦で兵力を温存しておくかが、大将の腕の見せどころである。そして勝ち戦になったときには、とことん勝てば良い。もし勝てる戦になったにもかかわらず攻めないとしたら、それは単なる臆病者だ。根拠のない勇気によって負け戦で無駄死にするのと同じくらい、臆病風に吹かれて勝ち戦を逃すことは、敗者への最短距離なのである。

野川徹（のがわ とおる）

レイダース・マネジメント・グループ代表、投資家向けにアドバイザー・サービスを提供するAllentis Asset Management LTD.（米国CFAA＝商品投資顧問）社長、インベストメントテクノロジー（株）代表取締役、投資分析ソフトの開発を行う。